

令和8年度 卒業生に対するアンケート調査の概要報告について

【目的】

本調査は、本学での教育の成果や効果を検証することにより教育の改善につなげていくことを目的とし、卒業して2年目の卒業生に対して毎年アンケート調査を実施する。

【対象】

令和6年度に仙台大学体育学部を卒業した571名

【方法】

在学中に大学から付与していたGoogleメールへの依頼と、本学に在職中（新助手、臨時職員）の該当年度卒業生から学科単位等でのコミュニティツール（グループLINE等）を利用して依頼を行った。回答はGoogleフォームから行い、対象者571名のうち48名から回答（回答率8.4%）を得ることができた。

【期間】

令和8年8月18日（火）～9月3日（木）

【結果】

問1. 性別

項 目	1.男	2.女
回答数	30	18
割 合	62.5%	37.5%

問2. 卒業した学科

学 科	1.体育	2.健康福祉	3.ｽﾎｰﾂ栄養	4.ｽﾎｰﾂ情報 マｽﾒﾃﾞｨｱ	5.現代武道	6.子ども 運動教育
回答数	23	7	7	4	5	2
割 合	47.9%	14.6%	14.6%	8.3%	10.4%	4.2%

問3. 現在の職業

項 目	教育機関	公務員・ 公的施設	スポーツ関連の 企業等	一般企業	その他	合計
回答数	17	3	6	16		
割 合	35.4%	6.3%	12.5%	33.3%		
項 目	医療・福祉系	栄養系	保育系	自営業	その他	合計
回答数	0	3	0	0		
割 合	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%		

問4. 本学の教育内容はいかがでしたか

項 目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	21	24	3	0	0	48
割 合	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%	0.0%	100%

分析結果：本学の教育内容について、令和7年度の分析では「満足している」「やや満足している」の肯定的評価が84.1%、「不満である」「やや不満である」の否定的評価が1.6%、「どちらともいえない」の中立評価が14.3%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価が93.8%へと大幅に上昇した一方、否定的評価は0.0%に減少、中立評価も6.3%へと減少した。この変化は、教育内容に対する全体的な満足度の向上を示している。特に14.3%存在していた中立評価（低見解）が8.0ポイント減少したことは、学生が大学の教育内容に対して明確なメリットを感じ、曖昧な評価が解消された結果であると考えられ、大学の教育改革の取り組みが結実したと推測できる。

問5. 本学の施設、設備は充実していましたか

項 目	1.充実している	2.やや充実している	3.どちらともいえない	4.やや不足である	5.不足である	合計
回答数	19	24	4	1	0	48
割 合	39.6%	50.0%	8.3%	2.1%	0.0%	100%

分析結果：本学の施設・設備の充実度について、令和7年度の分析では「充実している」「やや充実している」の肯定的評価が81.0%、「やや不足である」「不足である」の否定的評価が4.8%、「どちらともいえない」の中立評価が14.3%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価が89.6%へと上昇した一方、否定的評価は2.1%に半減、中立評価も8.3%へと大幅に減少した。この変化は、施設・設備に対する満足度の大幅な向上を示している。大学による施設の改修や修繕が進んだことで、中立だった学生の評価が肯定的へと変化したと考えられる。

問6. 本学の就職活動支援はいかがでしたか

項 目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	11	25	9	3	0	48
割 合	22.9%	52.1%	18.8%	6.3%	0.0%	100%

分析結果：本学の就職活動支援について、令和7年度の分析では「満足している」「やや満足している」の肯定的評価が63.5%、「やや不満である」「不満である」の否定的評価が11.1%、「どちらともいえない」の中立評価が25.4%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価が75.0%へと大幅に上昇した一方、否定的評価は6.3%に半減、中立評価も18.8%へと減少した。この変化は、就職活動支援の質的向上と学生ニーズへの合致を示している。特に前年比で否定的な回答や中立回答が明確に減少したことは、大学のキャリア支援体制や個別の就職面談などの施策が、多様化する学生の要望や現在の採用市場の的確にマッチした結果であるとうかがい知ることができる。

問7. 本学で学んだ知識や経験は現在の職場で活かされていますか

項 目	1.活かされている	2.やや活かされている	3.どちらともいえない	4.あまり活かされていない	5.活かされていない	合計
回答数	20	24	2	1	1	48
割 合	41.7%	50.0%	4.2%	2.1%	2.1%	100%

分析結果：本学で学んだことが職場で活かされているかについて、令和7年度の分析では「活かされている」「やや活かされている」の肯定的評価が74.6%、「あまり活かされていない」「活かされていない」の否定的評価が7.9%、「どちらともいえない」の中立評価が17.5%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価が91.7%へと大幅に上昇し、9割を超える高い水準となった一方、中立評価と否定的評価はともに4.2%へと減少した。この変化は大学での実践的な教育が成果を上げ、在学中の学びが卒業後の仕事現場で直接役に立っていることを示している。

問8. 大学を卒業していかがでしたか

項 目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	23	19	6	0	0	48
割 合	47.9%	39.6%	12.5%	0.0%	0.0%	100%

分析結果：本学を卒業したことについて、令和7年度の分析では「満足している」「やや満足している」の肯定的評価が88.9%、「やや不満である」「不満である」の否定的評価が3.2%、「どちらともいえない」の中立評価が7.9%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価は87.5%と前年並みの高い水準を維持した一方、特筆すべき点として否定的評価が0.0%を達成し、中立評価は12.5%へとわずかに微増した。この変化は、卒業生全員が大学生活に対して「不満なし」と宣言したことを意味し、本学の教育やキャンパス環境が総じて豊かであったことを証明している。中立評価が微増したものの、最高評価である「満足している」が47.9%と全体の約半数を占めており、卒業生としての高い自覚と誇りを持って社会へ旅立っていることが明らかとなっている。

問9. 本学は、体育・スポーツ及び健康分野を通して、グローバル化の視点に立った教育に重点を置いています。また、教養を供え、人間性豊かな行動規範を培い、専門的知見・技術を身につけた人材を養成することを目的にもしております。卒業時にその力が身についたと思いますか

項 目	1.身についた	2.やや身についた	3.どちらともいえない	4.あまり身につかなかった	5.身につかなかった	合計
回答数	19	24	5	0	0	48
割 合	39.6%	50.0%	10.4%	0.0%	0.0%	100%

分析結果：本学での人材養成について、令和7年度の分析では「身についた」「やや身についた」の肯定的評価が74.6%、「あまり身につかなかった」「身につかなかった」の否定的評価が6.4%、「どちらともいえない」の中立評価が19.0%であった。令和8年度のデータを見ると、肯定的評価が89.6%へと大幅に増加した一方、否定的評価の回答は0.0%となり、中立評価は10.4%へと減少した。この変化は、本学の教育理念と人材養成目的が正しく達成されている成果を示している。体育・スポーツおよび健康分野における専門的知見や技術、豊かな行動規範が学生にしっかりと定着していることを裏付けており、今後さらに高成果を求める人材育成の努力を継続していくことが重要である。